

## 東京浅草「神谷バー」

東京に行くと必ず寄るのが浅草界隈である。隅田川のほとりから浅草寺周辺の賑わいが好きだ。日本で最も古く、歴史を感じさせる地下鉄銀座線の終点浅草で降り、階段を上ると吾妻橋あたりに出る。そこからスカイツリーがよく見える。

浅草を訪ねるのは、「神谷バー」というお目当てがあるからだ。吾妻橋の交差点角にあり、写真のように風格のある建物である。2011年10月に神谷ビル本館は登録有形文化財に登録された。

サイトによると、「明治13年創業 浅草1丁目1番地。多くの文豪たちにも愛されてきた、日本初のバー」とある。初代神谷傳兵衛が「みかはや銘酒店」を開業して、酒の一杯売りを始める。1882(明治15)年に速成ブランデー(現在のデンキブラン)の製造販売を始め、1912(明治45)年に店舗の内部を西洋風に改造し、屋号を「神谷バー」と改める。

現在は1階が「神谷バー」、2階が「レストランカミヤ」、3階が「割烹神谷」からなる。1階は庶民的な「バー」であり、いつ行っても満員である。常連さんらしき人が席に陣取っている。ここの雰囲気が好きだが、禁煙席が満員だと、全席禁煙の2階に上がる。ゆっくりできるので、疲れたときにはありがたい。

すぐに注文するのが、アサヒ生ビールとデンキブランであり、ウィンナーと煮込、メンチカツである。ビールと「浪漫の香り漂う浅草を代表するカクテル」デンキブランはよく合う。でも寒いときは早めに熱燗にする。「神谷バー」は酒とともに、料理が美味くお値打ちなのがよい。

東京の一大「観光スポット」になったスカイツリーができたせいか、最近は平日でも混雑しているようだ。12月18日に名古屋老舗の居酒屋「大基本店」をレポートしたが、「神谷バー」は洋風居酒屋として人気を集めている。両者には、歴史や雰囲気に共通するものがある。ふだん洋風居酒屋にはめったに行かないが、「神谷バー」だけは別格だ。東京へ行く楽しみのひとつである。



(2014年12月29日)